

# 自己点検・自己評価報告書

令和2年3月31日

学校法人 信濃学園 新潟日建工科専門学校

# 目 次

## 基準1 教育理念・目的・育成人材像等

- 【1-1】 理念・目的・育成人材像は定められているか
- 【1-2】 学校の特色は何か
- 【1-3】 学校の将来構想を抱いているか

## 基準2 学校運営

- 【2-4】 運営方針が定められているか
- 【2-5】 事業計画は定められているか
- 【2-6】 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか
- 【2-7】 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか
- 【2-8】 意思決定システムは確立されているか
- 【2-9】 情報システム化等による業務の効率化は図られているか

## 基準3 教育活動

- 【3-10】 各学年の教育目標・育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか
- 【3-11】 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか
- 【3-12】 カリキュラムは体系的に編成されているか
- 【3-13】 学科の各科目は、カリキュラムの中で適当な位置付けがされているか
- 【3-14】 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか
- 【3-15】 授業評価の実施・評価体制はあるか
- 【3-16】 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
- 【3-17】 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
- 【3-18】 資格取得の指導体制はあるか

## 基準4 教育成果

- 【4-19】 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか
- 【4-20】 資格取得率の向上が図られているか
- 【4-21】 退学率の低減が図られているか
- 【4-22】 卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

## 基準5 学生支援

- 【5-23】 就職に関する体制は整備されているか
- 【5-24】 学生相談に関する体制は整備されているか

- 【5-25】 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか
- 【5-26】 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- 【5-27】 課外活動に対する支援体制は整備されているか
- 【5-28】 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか
- 【5-29】 保護者と適切に連携しているか
- 【5-30】 卒業生への支援体制はあるか

## 基準6 教育環境

- 【6-31】 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 【6-32】 学外実習・インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 【6-33】 防災に対する体制は整備されているか

## 基準7 学生の募集と受け入れ

- 【7-34】 学生募集活動は、適正に行われているか
- 【7-35】 学生募集活動において、教育成果は正確につたえられているか
- 【7-36】 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか
- 【7-37】 学納金は妥当なものとなっているか

## 基準8 財務

- 【8-38】 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 【8-39】 予算・収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか
- 【8-40】 財務について会計監査が適正に行われているか
- 【8-41】 財務情報公開の体制整備はできているか

## 基準9 法令等の遵守

- 【9-42】 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 【9-43】 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
- 【9-44】 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか
- 【9-45】 自己点検・自己評価結果を公開しているか

## 基準10 社会貢献

- 【10-46】 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
- 【10-47】 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか

[基準 1] 教育理念・目的・育成人材像等

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【1-1】 理念・目的・育成人材像は定められているか	理念・目的・育成人材像は「我が国の建設産業・建設技術の振興に寄与する人材の育成と国際感覚の育成と豊かな人格を図る」と定められているが、国際感覚の育成については海外研修旅行参加者の増加を見ても、意識が高まったと思われる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に授業内容等を検証し、時代に即したプログラムを作成する。</li> <li>座学だけではなく見学授業を多く取り入れ企業との結びつきを強める。</li> <li>海外研修旅行の参加者を増やすことに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外研修を通して外国の建築やインテリアに直接触れる機会を与える。</li> <li>時代の流れに即した技術やプランニングを学べるよう指導する。</li> </ul>	学則 HP
【1-2】 学校の特色は何か	建築関連の専門技術者の養成であり、即戦力が特色として認識されている。また、2級建築士等の資格試験の合格率が、連携校の協力により、非常に高いのが大きな特色である。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>2級建築士のみではなく、建設関連の資格取得率も向上させたい。</li> <li>資格取得だけではなく、CAD・測量など実務科目にも力を入れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設関連資格講座を開設するとともに、カリキュラムの精選を図り、効率的な運営をしたい。</li> <li>資格取得の向上に向けた教材の開発、教員の研修の充実を図りたい。</li> </ul>	建築士等資格 取得状況
【1-3】 学校の将来構想を抱いているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築やインテリアの分野で有資格者の輩出と豊富な知識と技能を持った人を養成すること。</li> <li>定員確保と即戦力となる建築技術者の育成に主眼をおいている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築業界において人手不足が問題となっている現状を把握し、求められる人材の育成に全力を注ぐこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ校の校長会が定期的開催されており、グループ校とともに連携し、中長期のビジョン及び将来構想を作成したい。</li> </ul>	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
1 定員の確保が、経営の根幹であり、安定した在籍数を今後も確保する。 2 2級建築士の資格の合格率と、卒業後の即戦力が本校の最大な理念・目的であり、合格率の更なる向上を目指したい。 3 建築設計科、既設の建築インテリアデザイン科の定着及び広報に努めたい。	1 定員確保のため、教職員一丸となった広報活動の方策を検討する。 2 資格取得のための講座開設や放課後を利用した勉強会を開催したい。 3 全員が広報を担当している意識を持ち、全員が経営者的な考え・行動を起こす。

[基準 2] 学校運営

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【2-4】 運営方針は定められているか	学校の目的・目標・方針は定められ、全教職員が理解している。個々に努力目標に向かってチャレンジしている。	B	・各校が募集目標の数値を掲げ、それに向けた努力をすること。 ・教職員の意見や提言を聴取し、職員会議で方向性をまとめ、校長会で調整を図る。	・全教職員に高校訪問数、出願人数等の個々の努力目標表を作成させ、職員一丸となってチャレンジしていくようにする。	
【2-5】 事業計画は定められているか	運営本部を通して事業計画の見直し、実行すべき計画案等が示される。少数精鋭の職員で現状を乗り切り、ノルマを達成すること。	B	・優秀な卒業生を輩出し、建築の楽しさを世間に伝えることにより、学校の事業計画がよりスムーズに実施される。	・学生数の増減が事業計画の中核を揺るがすことになるので、全職員一丸となって募集や広報に全力を尽くす。	
【2-6】 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	法人の重要事項については、定期開催の理事会・評議員会により意思決定されている。学校としては、運営本部が中心となって意思決定を下している。	C	・個々の学校の特色を取り入れた運営方針を打ち出すことも大切。 ・グループ校とも連携により、他校でできない絆の強さ、組織力を使った事業展開を実行する。	・分掌表では、1人が多くの役割を担い、見極めが難しいが評価できるシステムを検討したい。	
【2-7】 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	人事は本校で推薦し本部で承認するシステムである。賃金等については「給与規定」に基づき校長の教職員への評価が加算され本部で決められる	C	・賃金については、給与規定に基づき定められている。それに伴い各教職員について校長の評価が加算される。	・校長による授業評価等については細部にわたり評価されるので、平等性は高く結果については妥当と思われる。	人事考課制度 授業評価

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【2-8】 意思決定システムは確立されているか	日建工科専門学校グループとして意思決定については運営本部の承認とし、各校での意思決定については校長に託されている。	B	現状維持で問題ないと思われる。	・一般的な企業のような職場環境ではなく、少人数の組織等のこともあり、問題ないと思われる。	
【2-9】 情報システム化等による業務の効率化は図られているか	全教職員が端末を持ち、情報システム化され、資料・データ等の共有化されており、効率的な運営がされている。 PCの新しいOSにも対応している。	B	・情報システムに精通した職員から操作方法等の習得を積極的に推進する。また、マニュアル等の作成についても検討する。	2019年度に、校内全てのPCをリニューアルしたので、ハード、ソフトともに問題なく稼働している。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
<p>1 学校運営の目的は、学生への教育と教職員の資質向上が両輪である。</p> <p>2 学生への教育については、最終目標である建設業での有為な人材の育成であり、その目標を達成するために、授業だけではなく、資格取得なども推進していきたい。</p> <p>3 教職員の資質向上については、個々の教職員の力量によるが、日々研鑽する姿勢が必要である。</p>	<p>1 両輪を効率的達成できるように、全教職員が当たる体制を構築する。</p> <p>2 教育体制の推進を図る。具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①入学定員の確保</li> <li>②2級建築士資格取得率の維持向上(合格率90%以上)</li> <li>③退学率の減少(0%になるように)</li> </ul> <p>3 教職員の資質向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①教職員の研修会の参加(募集・広報委員会ほか)</li> </ul>

[基準 3] 教育活動

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【3-10】 各学科の教育目標・育成人材像は、その学科に対応する業界の人材のニーズに向けて正しく方向付けられているか	育成する人材像「建設業界に役立つ人材の育成＝建築士の養成」は明確であり、業界の人材ニーズに正しく向けられ、その対応をしている。	B	・高い二級建築士の資格取得率であり、業界からも認知されているが、入学者の学力の低下が広がりつつある。	・業界のニーズと一致している建築士養成を減少させないためにも、広報活動に努めるとともに、優秀な学生を確保したい。	
【3-11】 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	本科[2年制]建築設計科、建築インテリアデザイン科、建築IT科、建築士養成科(通信)を卒業後、2級建築士育成のための研究科[1年制]が設置されており、教育目標に沿い、到達レベルは明確に確立されている。	B	・建築士資格試験の受験は、国土交通省により定められており、到達レベルも明確にされ、それに対応したカリキュラムとなっている。	・資格取得のための知識・技術だけでなく、人間性をも兼ね備えた人材を育成できるよう挨拶・マナーなどを日々指導していきたい。	
【3-12】 カリキュラムは体系的に編成されているか	本科[2年制]のカリキュラムの到達後、研究科[1年制]のカリキュラムがあり、組織的・体系的に編成されている。	B	・建築士資格には十分対応できるように編成されているが、他の資格にも取得できるようにカリキュラムを編成したい。 ・建築設計科と建築インテリアデザイン科の共通化と独自化を実践している。	・学科と学年の枠を超えた、資格対策講座を設けているが、定期的に講座内容の見直しを図っていきたい。	
【3-13】 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	各学科・研究科の目標に沿って、座学、実験・実習が構成され、それらの教科のシラバスが作成されている。	B	・指導内容が各教科の重複や漏れがないよう、シラバスを精査する。	・毎年、シラバスを見直し、学生レベルに沿った内容となるよう変更したい。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【3-14】 キャリア教育の視点に 立ったカリキュラムや教 育方法などが実施されて いるか	キャリア教育そのものが本校の目 標でもあり、製図・実習・実験など の科目を資格取得と併せて演習 等を通して行っている。	B	・建築士養成そのものが、キャリア 教育そのものといえる。産業界か らの講師も多い本校であるが、講 師招請も積極的に推進したい。	・実務家教員の増加配置し、キャ リア教育の充実を図っている。	
【3-15】 授業評価の実施・評価 体制はあるか	学生による教員の授業評価(5段 階)及び事務職員の事務評価(5 段階)は、評価は概ね良好であっ た。	B	・年1度の授業評価ではなく、個 人面談を実施するなど、評価体 制の充実を図りたい。	・授業評価を収集するだけではな く、次の授業に生かすことが必要 であり、教授法の研修にも努めた い。	
【3-16】 育成目標に向け授業を 行うことができる要件を 備えた教員を確保してい るか	教職員は、教員免許取得者や1・ 2級建築士取得者または、それに 準ずるスキルを持ち、専門性・教 授性を備えた教員を確保してい る。	B	・建築専門性と関連の一般的な 資格があり、奥深く・幅広い教育 を推進するためにも、より多くの関 連資格を取得させたい。	・建築士の資格だけではなく、建 築関連資格にも挑戦させ、教師と しての幅を広げていただきたい。	
【3-17】 成績評価・単位認定の 基準は明確になっている か	学生必携にも基準が記載され、 成績単位・単位認定基準ともに明 記されている。	B	・単位認定・成績評価の基準は明 確に示され、全職員による成績会 議によって決定している。 ・テスト成績だけではなく、レポー ト、出席率、授業態度など多面的 に評価している。	・基準は明確になっているが、課 題・レポート・製図等の提出遅れ については、運用は個々の教員 にゆだねられている。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【3-18】 資格取得の指導体制はあるか	目標とする資格は、カリキュラムで明確に示され、その資格取得に向けた講座等も行われている。	B	・建築士以外の資格で、カリキュラムに組み込まれていないものは、放課後等の時間外にサポートしている。	・放課後等のサポート体制を構築し、多くの資格を取得できるようにしたい。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
1 学生を指導、育成し、有為な人材を送り出すためには、「良い教育」を実施することに他ならない。 2 「良い教育」とは、「企業が求める技術者の育成」そのものといえる。 3 「企業が求める技術者の育成」に向けて、教育体制の充実を図らなければならない。	1 「有為な人材の育成」を達成するために、常に業界等のニーズの把握に努める。 2 企業の求める人材は、多岐に亘るが、建築士としての基礎基本を踏まえた、社会人であり、着実に指導していきたい。 ①建築的な素養を身に付けた人材の育成 ②基本的マナーを身に付けた人材の育成 ③コミュニケーション能力を身に付けた人材の育成 ④時代に対応した人材の育成 3 指導体制の確立を図る。 ①全教職員の協力体制の確立 ②職員研修の拡大 ③カリキュラムの見直しとシラバスの充実



[基準 4] 教育成果

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【4-19】 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	研究科進学率32/45(71%)・求職者就職率35/35(100%)・専門就職率34/35(97%)となり、就職率100%を達成した。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>就活開始が3月スタートとなり、1年生については2学年に進級する前に就活を始めるよう指導する。</li> <li>研究科生についても同じく、9月の製図試験が終了する時期には内定がもらえているよう指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職に必要な求人票等を素早く閲覧しやすいように工夫する。</li> <li>資格を持って就活ができるよう複数の資格を取得するよう指導する。</li> </ul>	
【4-20】 資格取得率の向上が図られているか	2級建築士学科(20/23 86%)、2級建築士製図(10/20 50%)となった。 2級施工管理技士: 名 福祉住環境コーディネーター: 名 インテリアコーディネーター: 名 カラーコーディネーター: 名 リビングスタイリスト: 名	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>本科各科(2年間)+研究科(1年間)のスパンで、取得できるように資格をカリキュラムに合わせて検討し、奨励したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年で取得できる資格を周知するとともに、学生の意欲を喚起する方法を検討したい。</li> <li>放課後等のフォロー体制の充実と、さらなる指導を検討したい。</li> </ul>	
【4-21】 退学率の低減が図られているか	建築設計科1年に1人の退学があり、退学率(1/41 2.4%)である。退学理由は、進路変更によるもの。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>退学率の低減を図るには、入学者のミスマッチを無くすことと学習意欲によるところが多く、体験入学の充実を図りたい。不得手な科目については担当教員がサポートできるようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験入学(オープンキャンパス)において、建築系の専門学校での製図等の課題の厳しさを教えるとともに、建築の楽しさも伝えたい。</li> </ul>	
【4-22】 卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2019年度は在校生の作品が新潟県JIAの競技設計に入賞した。卒業生については更なる情報の把握に努めたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>在校生が積極的に競技設計等に参加できるための情報提供と指導を行う。</li> <li>卒業生については同窓会等を企画し、情報を収集に努めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新潟県建築士会の競技設計を一つの選択枝として各自参加するよう指導する。</li> <li>卒業生対象の同窓会等を企画する。</li> </ul>	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検小項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
<p>1 過去4年間100%の就職内定率であり、2019年度も継続できた。建築・インテリアに関連する企業にほぼ全員就職したことから、学校で学んだ専門分野への就職を維持継続させたい。</p> <p>2 2級建築士のみならず、2級建築施工管理技術検定学科試験、福祉住環境コーディネーター、インテリアコーディネーター等、業界で求められる高度な資格を取得できた。</p> <p>3 退学者数は、前年度より少ないが、ミスマッチにならぬよう、高校側への広報に努めたい。</p>	<p>1 2級建築士の製図試験が、9月に行われるが、それまでに内定を取得できるよう指導する。 就職するものは3月から就職活動を始め、早い段階で内定を取れるよう指導する。</p> <p>2 各学年で取得できる資格一覧を掲示するとともに、学生の意欲を喚起したい。</p> <p>3 退学率の低減を図るには、入学者のミスマッチと学習意欲不足によるところが多く体験入学の充実を図りたい。</p>

[基準 5] 学生支援

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【5-23】 就職に関する体制は整備されているか	進路指導担当が企業からの求人、ハローワークや担任とも連携し、就職支援体制を整えている。今年度は、大学への編入学の希望者がなかったが、大学等への進学へも対応できる体制も整えている。	B	・企業訪問、面接採用試験、履歴書の書き方など進路指導担当とクラス担任とがコミュニケーションを取りながら組織的に指導する体制を整えたい。	・クラス担任と進路指導担当の連携を密に行っている。 また、早期に合同説明会に参加するなど積極的に就活するよう指導すると共に、ポートフォリオ(作品集)を充実するよう指導している。	
【5-24】 学生相談に関する体制は整備されているか	学生からの相談は、主にクラス担任が担当しており、必要に応じて個別面談を実施している。	B	・学生からの相談ごとは、クラス担任だけに任せるのではなく、教職員全員で、情報を共有化し解決したい。	・教職員は日々、積極的に学生とのコミュニケーションを図り、相談等があれば迅速に対応している。	
【5-25】 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	入学時には特待生制度が、入学後には奨学生制度があり、それぞれ活用されている。	B	・奨学金制度については、全員に周知し、学生からの要望に応じたい。	・特待生制度の充実と奨学生制度の拡大を図りたい。	
【5-26】 学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	年度始めに全学生を対象に健康診断を実施している。	B	・学校保健室には、看護師が常駐していないが、事務職員とクラス担任が連携を密にし、円滑に対応したい。	・常駐していない学校医・看護師との連絡・連携を密にし、今後に対応していきたい。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【5-27】 課外活動に対する支援体制は整備されているか	年2回のスポーツ大会、建築の現場見学会や国内研修旅行等の課外活動を実施し、支援体制は整られている。	B	・各地で開催される展示会、イベントや各種競技設計(建築設計コンクール)等について、積極的に参加するよう促したい。	・展示会やイベントは、ホームルームや掲示板等で学生に周知させると共に、競技設計に積極的に参加できるように、様々な形で支援をしていきたい。	
【5-28】 学生寮等、学生の生活環境への支援はおこなわれているか	県外出身の学生は少数で、ほとんどの学生は自宅から通学している。一部の遠隔出身者にはアパートを斡旋している。	B	・遠隔地出身者には、賃貸アパート等の物件を扱っている業社等の紹介をしているが、現状で課題はない。	・特に支援すべき課題がない。賃貸アパートの業者と提携し、なるべく安価な良い条件で借りる事ができるように努めている。	
【5-29】 保護者と適切に連携しているか	保護者との連絡、連携を重視し、努力している。クラス担任が、各学年に1回程度保護者との面談を実施している。希望者は随時対応している。	B	・保護者との面談には、遠隔地の保護者や仕事の都合などにより、面談日時の設定が困難であるが、特に課題がないと思われる。	・十分な連携が図られており、特に課題がないと思われる。	
【5-30】 卒業生への支援体制はあるか	卒業後に相談や現状報告するために来校する卒業生が多く、卒業生の離職者にも支援しており、職員で情報を共有し適切に対応している。	C	・離職者等の情報収集が難しく、定期的に同窓会を企画するなどして情報を収集したい。	・来校しない卒業生に対しては、アンケートなどにより情報収集に努めている。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検小項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ

評価基準    A…達成した    B…ほぼ達成した    C…現状維持    D…現状より悪くなった

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
1 学生支援は、教育を支える側面が大きく、大切なものである。 2 充実した学生生活を送れるように、各方面から支援する必要がある。	1 支援は充実した学生生活を送れるように各種の相談、経済的支援、健康管理及び保護者との連携など、これらを充実させることが教育には大切である。 2 相談は、全教職員により迅速かつ適切に対応できているので、継続していきたい。 3 保護者との連携は、密にすることが大切である。「期待される学校・学生」を育てるということから、連携を密にしていきたい。

[基準 6] 教育環境

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【6-31】 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育上の必要性に十分対応できるよう、施設・設備は整備されている。</li> <li>・CAD室のパソコンの総入れ替えを実施した。</li> <li>・各教室に大型液晶テレビを導入した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に建物の設備等の点検改修できる体制を整備したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の老朽化に伴い、不具合が出始めている設備等について、メンテナンスを計画的に実施している。</li> </ul>	
【6-32】 学外実習・インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得のための学外実習、就職希望者のインターンシップは実施している。海外研修は授業の一環として実施している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ修了者を雇用する企業もあり、インターンシップ先の確保に努めたい。</li> <li>・海外研修は授業の一環であるが、全員の参加を基本としているが、経済的理由から参加できない学生もいるので対策を講じたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育効果を踏まえて、学外研修・インターンシップ・海外研修について、その意義や効果について共通の認識が持てるよう指導している。</li> </ul>	
【6-33】 防災に対する体制は整備されているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回、全校生徒による防災訓練を行うとともに、防災設備メンテナンス会社と契約し、定期点検を実施している。</li> <li>・避難訓練を毎年実施しており、また、日々、防火管理の自主検査を行っている</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災計画により、防災組織・役割及び活動内容が定められている。建築の授業の一環として防災のことを学んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ起きてもおかしくない大地震に備えて、日々防災計画を見直していきたい。</li> <li>・防災機器等の点検を行い、不備があれば、その都度、修理等をしている。</li> </ul>	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 施設・設備は指定基準を満たし整備されているが、メンテナンスを計画的、定期的に行い、教育上有効に機能するようにしなければならない。</li> <li>2 学外研修・インターンシップ・海外研修などは、学校での授業とは違い、生きた教材でもあり、大いに実施していきたい。</li> <li>3 防災訓練だけでなく、建築技術者の養成の本校にとっては、防災に対する心構えや地震に対する知識・技術を学習させなければならない。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小規模校の本校にとって、施設・設備には余裕があるが、メンテナンスを怠ることなく実施して行きたい。</li> <li>2 学外研修・インターンシップ・海外研修は、建築を学ぶものにとって必要なことであり、充実を図って行きたい。</li> <li>3 日々、教室・実習室等の防災機器、設備等の点検を行い、点検簿に記入しているが、継続していきたい。</li> </ol>

[基準 7] 学生の募集と受け入れ

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【7-34】 学生募集活動は、適正に行われているか	学校案内パンフレット・募集要項、掲示ポスターを作成し、各高校や希望者に配布し、広報に努めている。また、インターネット、SNSを媒介に広く活動を行っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>こまめに高校を訪問するとともに、高校生のニーズを把握したい。</li> <li>ニーズを分析し、ガイダンスや学校案内パンフレットの充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の学生募集活動を分析し、募集活動を展開している。高校訪問にあつては訪問先の高校から本校への入学者数、体験者数、資料請求者数のデータ等を提示し、本校への関心度を伝えるようにしている。</li> </ul>	
【7-35】 学生募集活動において、教育効果は正確につたえられているか	就職実績・2級建築士等の資格取得実績をパンフレットやチラシ、ポスター、SNS等でアピールしている。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職実績、2級建築士等の取得実績が、高校生にとって魅力的なものであることを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格合格率・就職率は高校生には浸透してきたように思われるが、建築の楽しさをアピールする方法を今後検討したい。</li> <li>建築業界の活性化に伴い、人員不足が叫ばれている今日、有効求人倍率の高さからもアピールしたい。</li> </ul>	
【7-36】 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	入学希望者には、体験入学を勧めており、入学者の100%は体験入学に参加した。入試は、一般選考、AO選考、特待生選考ともに、公平基準で行い、合格判定会議で決定している。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生募集要項に記載し、明確な基準を設けている。AO入試についても県のアドミッションオフィス入試事務手続きを基に明確打ち出している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AO入試についてはアドミッションオフィス活動を明確に改善した。</li> </ul>	
【7-37】 学納金は妥当なものとなっているか	グループ校全体で学納金を決めているが、妥当と認識している。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>他校と比較しても、適切なものとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題は特に感じていない。</li> </ul>	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ

評価基準    A…達成した    B…ほぼ達成した    C…現状維持    D…現状より悪くなった    NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
<p>1 高校生の減少・大学進学志向などにより、先が読めない厳しい状況にあるが、就職実績・資格取得率など教育効果を正確に伝える工夫をしなければならない。</p> <p>2 入学者の体験入学参加率は、100%と高く、体験入学に参加させる方法を検討しなければならない。</p> <p>3 入学選考は、一般選考、AO選考、特待生選考ともに公平に行なわれているが、「建築専門科目は難しい」との評判があり、高校を卒業程度の学力があれば建築士資格を取得できることを高校側に広報したい。</p>	<p>1 専門学校と大学との違いを明確に示し、専門学校の良さをアピールする。</p> <p>2 体験入学参加者の増加が、入学者の増加に繋がるので、体験入学の必要性を保護者等にも伝えていきたい。</p> <p>3 指定校推薦の枠を拡大し、より多くの高校からの入学者を取り入れたい。</p>



[基準 8] 財務

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【8-38】 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	昨年度は、若干減少したものの、今年度とそれ以上に入学者が増えたので、財務基盤は安定的に推移している。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 先ずは募集人数を定員になるよう、募集・広報活動を活発化して行く。</li> <li>• 建築の魅力を高校生たちに伝える必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2020年度より入学者が大幅に増加している。来年度は現状維持出来るよう学生募集活動を力を入れていきたい。</li> </ul>	
【8-39】 予算・収支計画は、有効かつ妥当なものとなっているか	予算・収支計画は妥当といえる。予算に見合った事業計画を立て、少しでも多くの利益を生むよう努力して行く。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 年度の事業計画を作成し、その実現のために適正かつ適切に予算が決定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 唯一、学生募集状況にかかっているため、入学者の人数を増やす手立てを検討し実行すること。</li> </ul>	
【8-40】 財務について会計監査が適正に行われているか	グループ校全体で公認会計士の指導のもと適正に行われている。	B	公認会計士の指示に従い適切に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 特に課題を感じない。</li> </ul>	
【8-41】 財務情報公開の体制整備はできているか	財務書類等閲覧規定があり、「財務書類等閲覧申請書」により、申請があれば規定の範囲で閲覧できる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 財務書類をファイル化し、事務室で管理しており、求められれば閲覧できるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 特に課題を感じていない。</li> </ul>	

評価基準    A…達成した    B…ほぼ達成した    C…現状維持    D…現状より悪くなった    NA…あてはまらない

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ

評価基準    A…達成した    B…ほぼ達成した    C…現状維持    D…現状より悪くなった    NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
1 学納金が、収入源であり、学生の確保と退学者の減少に努めることが依然重要である。 2 財務については、法人として公認会計士の指導のもと、適正に処理されているので、継続して適正に処理していく。 3 財務情報の公開については、今春より行う事とする。	1 学生確保と退学者の減少に全教職員一丸となって、全教職員経営者の視点で当たっていく。 2 財務情報の公開は、今春より公開を行い、来年度中にホームページ上にて公開予定とする。

[基準 9] 法令等の遵守

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【9-42】 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令、設置基準等は遵守され、適正な運営されている。	B	・監督官庁(県私学振興室、国土交通省の許認可)を受け、適正かつ適切に学校運営がされている。	・法令・設置基準等が遵守され、運営されているので、特に問題はない。	
【9-43】 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報関連の資料は施錠できる保管庫に保存している。全てのパソコンはパスワードを設定しており、個人情報がある書類はシュレッダー処理を徹底している。	B	・個人情報規定があり、規定に基づいて運営されている。	・特に問題は感じていない。	
【9-44】 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価に実施については、問題が持ち上がった時点でその都度解決を図るようにしている。	B	・自己点検・自己評価は定期的実施している。今後はフィードバックするようにしたい。	・個人評価の受け止め方、解釈の仕方など多様であるが、個々の成長のためにも評価を活用したい。	
【9-45】 自己点検・自己評価結果を公開しているか	閲覧希望の方には、公開を行っているが、2020年春より常時、ホームページ上に公開予定。	C	・評価委員会が設置されていないため、2020年より委員会等を設置し、ホームページ上にて公開を行う予定。	・評価委員会等の設置を行う。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ

評価基準    A…達成した    B…ほぼ達成した    C…現状維持    D…現状より悪くなった    NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
1 法令・設置基準(定員・年間授業時数・校舎面積など)は、遵守され、適正に処理されているので、今後も適正に運営していきたい。 2 自己点検・自己評価は、定期的の実施しているので有効活用する。	1 法令・設置基準は、遵守され、適正に処理されているので、次年度も適正に運営していきたい。 2 自己点検・自己評価は、様式・方法、そして、結果をどのように教職員にフィードバックするかなど検討していきたい。

[基準 10] 社会貢献

点検中項目	現状認識・評価等	評価	改善のための方策	具体的な取組状況	参考資料・データ
【10-46】 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	積極的な社会貢献ではないが、高校や中学校からの要望により生徒が本校を訪問し一部の授業を体験している。 高等学校の生徒向けに模擬授業を実施している	C	・要望があれば可能な限り教育資源や施設を提供したい。	・地域に支えられてこそその学校であり、本校の教育資源は要望があれば生かしていきたい。	
【10-47】 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	積極的に奨励はしていないが、授業等でも勧めている。	C	・学生個々の取り組みに負うものであり、奨励に努めたい。	・学生に奨励していきたい。	

評価基準 A…達成した B…ほぼ達成した C…現状維持 D…現状より悪くなった NA…あてはまらない

点検大項目の課題と成果	次年度に向けての課題(方策・目標・その他)
1 学校の教育資源や施設等の活用は、地域とともに生きていく専門学校にとって有意義なことであるが、少ない教職員、狭い教育施設の中で実施することには、大変困難である。 2 ボランティア活動の奨励・支援については、学生個々の取り組みに負うものであるが、評価等を含めて検討することが必要であろう。	1 学校の教育資源や施設等の活用は、地域とともに生きていく専門学校にとって重要であり、関連企業や業界と連携し検討していきたい。 2 ボランティア活動の奨励・支援については、学生個々の取り組みに負うものであるが、支援するためには、単位認定するなど参加するメリットも含めて検討したい。